

# 地域おこし協力隊活動日記

今年で地域おこし協力隊3年目を迎える離島振興担当の竹久友理子さんに、これまでの活動と最後の1年の抱負を聞きました！

地域創生課地域連携係 TEL 25-1227

竹久友理子



地域おこし協力隊として菅島に在住しています、竹久友理子です。私は、「地域プロモーションと離島資源の高付加価値化」をミッションに掲げ、着任以降菅島の特産品である「あらめ(サガラメ)」を活かした商品づくりを通して菅島の認知向上に取り組んできました。2024年9月にはあらめを主原料とした「さがらめパック」を発売し、現在では鳥羽市内だけでなく伊勢志摩全域、さらに長島リゾートや東京・三重テラスといった遠方でも

取り扱いいただき、80以上の場所で「さがらめパック」を通した菅島のPRを実現できたと思っています。



「さがらめパック」を通したさまざまな場所での菅島PRですが、決して容易なものではありませんでした。地域おこし協力隊着任後、商品を完成させ販売にいたるまでの過程では、多忙なスケジュールに苦勞したこともありましたが、鳥羽商工会議所のみなさんをはじめ、多くのかたがたの温かい協力を支えられ、わずか半年で商品化でき、現在まで活動を継続することができています。また、「さがらめパック」の事業をきっかけに、市内の経営者のみなさんとの交流も深まり、昨年度より定期的にマーケティング講座も開講しています。前職で培った経験が、地域の中で地化されることになるとは全く想像していませんでしたが、自身の経験が役立つと実感できることをとてもうれしく思っています。菅島の生活では、島のみなさんとともに網さばきなどの磯仕事や祭りの運営に携わり、日々充実した時間を過ごしています。また、子どもたちと定期的にクッキングイベントを行う



など、都市部の生活では得られなかった交流も生まれています。さらに、昨年は島内の空き家問題や人口減少の課題に向き合うために立ち上がったNPO法人「菅島ミライバル」のもと、三重県の離島では初となるシェアハウスを完成させることができました。これらの活動を通して、菅島に興味を持ってくれる人を増やし、関係人口の創出につなげていきたいと思っています。



さて、少し話題を変えますが、みなさんは菅島の<sup>おおやま</sup>大山に登ったことはありますか。大山から見下ろす海やリアス海岸、そして鳥羽市街の景観は、有名な景勝地にも引けを取らない美しさがあります。その理由は、大山の尾根にあります。菅島の大山は、背丈の低い紅ツゲの群生地であるため、尾根から360度の景色を見渡すことができるのです。私はこの美しい景色を、より多くのかたに実際に体感してもらうための取り組みを、任期最後の1年間を通して進めていきたいと考えています。そして、この1年をこれまでの活動の集大成と位置づけ、菅島の魅力発信に全力を尽くしていきます。どうぞみなさま、今年度もよろしく願いいたします。

